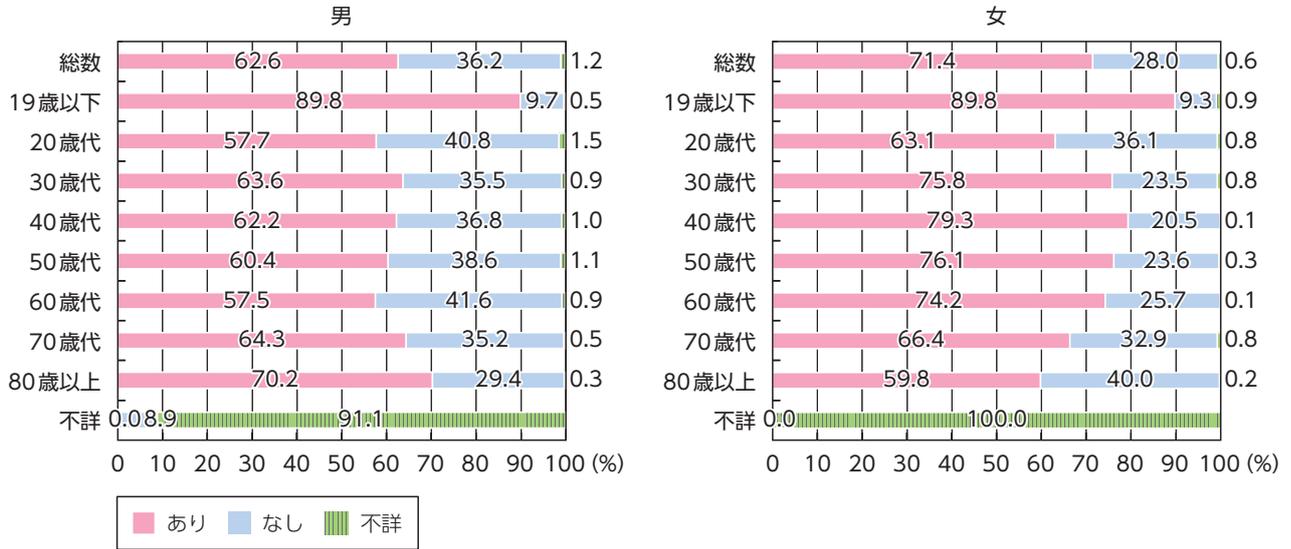


## 7 同居人・配偶関係別の自殺の状況

令和元年における同居人別の自殺の状況について、自殺統計によれば（第1-30図）、男

女とも、全ての年齢階級で、同居人「あり」が多くなっている。

第1-30図 令和元年における同居人の状況別自殺者数の構成割合



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

次に、平成30年における配偶関係別の自殺死亡率の状況を見ると（第1-31表）、男女とも「有配偶者」は全ての年齢階級で各年代別の総数よりも低くなっている一方、「未婚」、

「死別」、「離別」は各年代別の総数よりも高くなっている。特に、男性の「離別」が高くなっている。

第1-31表 平成30年における配偶関係別の自殺死亡率（配偶関係別人口10万人当たり）の状況

男						
年齢階級	総数 <sup>1)</sup>	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
総数 <sup>2)</sup>	26.0	23.8	23.9	26.2	32.0	27.7
有配偶者	17.4	11.5	11.0	14.9	19.4	19.8
未婚	32.7	26.9	38.3	40.2	55.3	55.8
死別	51.3	—	68.4	64.6	50.8	51.1
離別	99.2	155.8	118.5	110.9	109.0	81.6

女						
年齢階級	総数 <sup>1)</sup>	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
総数 <sup>2)</sup>	10.8	9.9	8.3	10.6	12.3	12.0
有配偶者	7.9	4.0	4.4	6.8	8.9	9.8
未婚	12.4	11.7	13.4	17.0	22.3	14.5
死別	14.4	—	31.2	13.4	18.7	14.2
離別	26.1	35.5	31.3	29.4	27.1	21.7

注：1) 総数には15～19歳及び年齢不詳を含む。

2) 総数には配偶関係不詳を含む。

資料：厚生労働省「人口動態統計」及び総務省「2015年国勢調査」より厚生労働省自殺対策推進室作成